

学校総合体育大会が終わりました。全ての種目を見に行くことはできなかったのですが、全力で頑張る大石南中の選手を応援することができました。部活動は、いよいよ2年生がリーダーとなります。新チームの活躍を期待しています。先週は期末テストがありました。先月の全校朝会でお話ししたように、テストは、終わったあとが大事です。点数と平均点だけ確認して終わり、ということのないようにしてください。

さて、今日は私の座右の銘についてお話しします。本校の先生方が付けている名札には、それぞれの先生の座右の銘が入っています。座右の銘とは、常に自分の近くにおいて、戒めとする言葉のことです。「大事にしている言葉」でいいでしょう。

私の名札には、「人間万事塞翁が馬」という言葉が書いてあります。（「にんげん」を「じんかん」と読む場合もあります。ここでは、人という意味ではなく、世の中というような意味になります。）意味は「人の世の禍（不幸）や福（幸福）は予測できないものだ。」というものです。もともとなった話は中国の故事なので、これは故事成語の一つです。その故事はこのような話です。「塞翁という老人の馬が逃げた（不幸）、その馬が優れた別の馬を連れて帰ってきた（幸せ）、その馬に乗っていた老人の息子が落馬して足を折った（不幸）、そのおかげで兵隊に行かずに済んで命が助かった（幸せ）」

この言葉には、様々な解釈がありますが、私は次のように捉えています。「不幸や幸福は予測できるものではない、悪いことだと思っても、それはきっとよいことにつながるはず。だから常に前向きにがんばろう。」

つまり、つらいことや嫌なことがあっても、けっしてくよくよせず、前を向こう、という自分をポジティブにするための座右の銘なのです。

つらいことや嫌なことは、もちろんない方がいいですが、全くない人などいないでしょう。感染症が流行した3年間はずいぶんと我慢をしたことも多かったと思います。そんな時に、いつまでも下を向いて、くよくよして欲しくないのです。イギリスの喜劇役者チャップリンの言葉に「下を向いていたら虹を見つけられないよ」というのがあります。これも、私の好きな言葉です。前を向いて、前進し続ける大石南中！でいきましょう。

You'll never find a rainbow if you're looking down.

おわりに、いよいよ1学期も学校へ来る日はあと10日です。今まで通り、健康管理をしっかりとしつつ、1学期のしめくくりをしっかりとやりましょう。

校長 大澤 聡

